

秋旅服装指南



イラスト／時川真一

北海道の秋は、まさしく食の秋。「さっぽろオータムフェスト」（札幌）、旭川の「北の恵み食べマルシェ」のほか、道東・オホーツク方面でも海産物を中心としたグルメイベントが盛りだくさんだ。9月下旬には秋の大型連休・シルバーウィークがあるので、北海道の食を目的に旅行する人も多いはず。

さて、9月中旬から下旬にかけて北海道は気温が上がりにくく、最高気温が20℃を下回る日もある。この頃、東京の最高気温は25℃ほど。関東地方では

まだ半袖でいける時期でも、北海道では厳しいと考えてほしい。日中の時間は、気温の上下に合わせて脱ぎ着しやすいパーカーやセータースタイルをベーシックに。また、日の入りとなる18時頃には、さらに重ね着を。薄手のコートやジャケットを羽織ると万全だ。

また、盆地の旭川の最低気温は11℃ほどであり、道東・オホーツク方面も冷え込む日が多い。冗談ではなく、ストーブを炊く家庭もあるほどだ。アンダータイツはまだ必要ではないが、暖かい上着はしっかりと準備しよう。



イラスト/時川真一

秋の北海道旅行で楽しめるのは、グルメのほかにも温泉・紅葉がある。大雪・知床方面の紅葉は9月下旬～10月上旬が見ごろ。また道央の支笏湖温泉や札幌・定山溪温泉も10月初旬から紅葉のシーズンを迎える。このような山間部は天候の変化、また風によって体感温度を低く感じるなので、より服装には配慮したい。

山間の森林地帯・温泉郷では、防水性能の高いアウトドア用アウターが一枚あると安心。最近、インナーダウンを羽織って観光する人をよく見かける。確かに、ダウンは暖かい。しかし、ダウンやフリースは保温効果はあれども、防風・防水効果は持ち合わせていない。レインウエアなどのアウターをさらに一枚重ね着することで、体感温度を上げることができる。アウトドア用アウターは2万円を超えるものも多く、決して安価ではないが、手に入れておけば使えるシーンは多々ある。荷物をコンパクトにできるという面にも注目だ。

たびらい北海道より